

第1回 三朝町放課後児童クラブのあり方検討委員会 会議録

開催日時 令和7年3月6日（木曜日）午後6時25分～午後8時15分
開催場所 三朝町役場2階 第2会議室
出席者 西田寛司教育長、委員8名（欠席者なし）、教育委員会事務局2名

会議の内容

- 1 開会 午後6時25分（終了午後8時15分）
- 2 教育長あいさつ
 - ・文科省の子どもの体力向上のための総合的な方策についてという中教審の答申の中で、今の子どもたちにとって基礎的な能力の低下や社会、地域社会の教育力の低下、家庭の教育力の低下、そんな中で学びや身体を正常的に動かす遊びとの触れ合いの社会を増やす面が非常に少なくなっていることが挙げられている。
 - ・放課後に子どもを保育する場から、その在り方が変化してきた。中教審の答申では、子どもたちの大切な3つの間というキーワードとして空間・時間・仲間があり、外遊びという空間や時間の中で新しい経験をし、人間関係を構築する機会が減少しつつある。時代の変化からそういう役割を地域社会が担うことが重要なものとなっている。
 - ・学童クラブで縦割り活動をする中で、地域の方が関わっていただくことが創造できたら、よりよい子どもたちの成長に繋がると考える。
 - ・強みを伸ばしてやることが、関わる人にとっても幸せである。
 - ・児童にとってより良い環境の創出のためにご協力願う。
- 3 委員の紹介
 - 委員
 - ・三徳地域協議会として、町から委託を受け三朝東学童クラブを運営。平成19年に受託後、今年で17年目になる。
 - ・委員の意見を聞き、より良い意見を参考にさせていただきたい。
 - 委員
 - ・現在、コミュニティ・スクールの小学校運営協議会の会長をしている。昨年からは地域コーディネーターの尽力により活動に方向性が見え始め、スピード感を持って協議を行っている。
 - ・学童クラブについてはあまり接点を持たないため、委員の意見を聞き参考にさせていただきたい。
 - 委員
 - ・竹田地域協議会として南学童クラブを受託していた。令和3年4月閉鎖。
 - ・子どもの成育・活動環境について変化していることは承知している。
 - ・環境に合った形で円滑に運営できるよう協議出来たら良い。
 - 委員
 - ・三朝西学童クラブ指導員であり、まださまざまな課題がある。
 - ・本委員会での意見等も今後の西学童クラブの運営に活かせられたらと思う。
 - 委員
 - ・コミュニティ・スクールの地域コーディネーターとして活動している。
 - ・学童クラブとは令和6年の夏休み中の読み聞かせ等に関わったこともある。
 - ・子どもと地域の大人の活動の接点が少ない中で、本委員会として地域活

- 動と学童クラブが少しでも接点を持てれば良いと考えている。
- 委員
- ・北栄町学童クラブ統括責任者。
 - ・経験したことを本会に提供出来たら良い。
- 委員
- ・三朝東学童クラブ利用児童の保護者である。
 - ・保育、勉強面において学童クラブを利用できる環境は恵まれていると思う。
 - ・学校閉業日（土曜、長期休業中）も利用できる環境もよい。
- 委員
- ・三朝東学童クラブを利用させていただいた。
 - ・学童クラブにはたくさん良い面があり、それを今後に残すことが出来たらと思う。
 - ・子どもが少なくなってきて小学校も1つになった。かつ子どもを取り巻く環境も保護者の意識も変化している中で、より良い学童クラブ環境の創出のため協力出来たらと思う。
- 3 委員長等の選出 ～事務局案の提案について発言あり～
- ・事務局案として委員長に山崎一彰委員、副委員長に中山功一委員を提案。満場一致で互選された。
- 4 町教育委員会からの諮問 ～西田教育長より山崎委員長へ諮問（別紙のとおり）～
- 5 議題
- (1) 三朝町放課後児童クラブの今後のあり方について
- ◇資料説明（事務局より）
- 委員長
- ・スケジュールでは本日、会議をスタートし、残りは2回、計3回の会議の中で方向性を示して、答申するという感じ。9月に答申が予定されているので、この会議の進み具合にもよるが、途中、回数を増やしたいということも、或いは起きるといふ、そういうことも考えておられるのか。
- 事務局
- ・もう少し時間が欲しいということであれば、その間にもう1回ぐらいの会議の場を設けることは可能。
- 委員長
- ・課題と今後の方向性について、事務局で上手く整理され、何点かポイントになる課題を示しておられる。今日は最初の会議なので、それぞれの立場で日頃の考えなどについてお聞きしたい。
- 委員
- 【東学童クラブの現状】**
- ・登録数は増えている。
 - ・指導員の確保というところが一番苦労している。
 - ・児童と年齢が近い指導員が良いが、フルタイム勤務ではないため、若い方は条件が合わない。そのため高齢者主体の運営となりがちだが、保護者の協力を得て運営している。
 - ・委託しても、運営協議会のような形の組織があって、そこで保護者の方々の意見（ニーズ等）をどう吸い上げていくかが大切だと思う。
- 委員
- 【西学童クラブの現状】**

委員

- ・安全安心な学童クラブ運営に努めている。また、子どもの気持ちを聞くことも大切であるとする。
- ・ただし、西の場合、見守りの手法がどうしてもトラブル予防や、ケガがないよう安全にという見方になっている。
- ・やはり、学童クラブは、子どもの主体性や自主性・自立性を養う場でもあり、仲間と遊ぶことによって、人間関係、関わり方についても学んでいける良い場でもある。遊びでも自主性を大切にしている。
- ・異年齢集団であるのは学校にはなかなかない良い面と捉えている。
- ・長期休業中等は地域の皆様の力をいただき、子どもにとって魅力あるプログラムを提供したい。
- ・保護者の意見を聞き、質の高い（ニーズに合った）学童保育を行いたい。
- ・中学生ボランティアも活用するのが良い。（東は既に実施、西は昨年から）
- ・北栄町には2つの学童クラブがあり、両方をシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社（以下「シダックス」という。）へ運営委託している。
- ・今の仕事を受ける際に、それぞれの責任者の上にもう1つ統括責任者という役をつけて、北栄町の2つの学童の仕組み（働き方や方針等）を同じにした。
- ・シダックスに委託となったが、指導員は全員そのままシダックスの社員になったという経緯がある。
- ・シダックスという株式会社が間に入り、利用者の募集は町が行うが、実際の運営はシダックスが行っている。
- ・北栄町では2つ（北条、大栄）を同じ形にして、合同の研修を実施しながら、同じ方向で進めてきたことが功を奏してきたと感じる。
- ・職員の確保については、株式会社が途中に入るというチャンネルが1つ増えたことは大きい。町での募集とは別に会社も募集をかけており、特段、困っているということはない。
- ・職員が育ってないときはトラブルが多い。当初は子どもたちの動きを制限しながら、トラブルが起きないように事前に押さえ込んでしまい、子どもたちはストレスを抱えていた。
- ・見方を変え、トラブルが起きたら、自分たちで解決できるよう導くよう指導している。
- ・北栄は若い（20～40歳代）スタッフが多い。（仕事休業中の方、鳥短保育生、高校生もアルバイトとして雇用）
- ・地域団体とのイベント連携（稲刈り、餅つき、祭りでのダンス披露）など、それぞれの学童の特色は継続しており、委託後も保護者からの信頼は保たれており、不安視されることはなかった。
- ・民間委託によって、北栄、琴浦、湯梨浜へ指導ノウハウの共有化が図れた。
- ・時代の変化からか地域との結びつきが希薄化しているようにも思える。
- ・コミュニティ・スクールの登録ボランティアさんにも活躍してもらいたい。
- ・北栄の場合は北条のNPO団体「まちづくりネット」とタイアップしているのはすごく大きいと思う。本町でも子どもの成長機会の創出に様々な地域団体

委員

- との協力が大切と感じる。
- 委員
- ・指導員の高齢化が大変に思える。児童の動きになかなかついていけない。
 - ・委託になると、地域のつながりが希薄化しそうな感じがする。
 - ・地域の人が、子どもをちゃんと見ている感じがある。
 - ・多少のトラブルや事故は良くあるのは仕方ない。
 - ・三徳や小鹿では児童にとって友達の家が遠い。学童でそういった友達との繋がりを持てるのはありがたい。
- 委員
- ・(特に三徳は) 地域と家庭のつながりに安心感を持っている。
 - ・若い方(高校生や大学生)が来てくれるのは魅力的だと思う。体力的にも。
 - ・トラブルやケガが無いことに対して神経を使っておられ、のびのびした学童クラブではなくなってきたと感じる。時代の変化もあるかと思うが。
 - ・運営面より、子どもたちがのびのび利用し、友達とのつながりを確認できる場、人生の先輩から色々教わる場を提供できることが大切と思う。
- 委員
- ・学童あり方も時代により変化した。
親の不在の受け皿 → 放課後に行く第2の小学校の様なものとなった。
 - ・親不在の受け皿から変化し、それぞれの学童の取り組みによりさらに中身が変化した。
 - ・子どもを預かることに加え、社会的性格を帯びてきた。
 - ・各学童クラブの良し悪しが問題ではなく、(小学校統合により)本来、学童クラブは2つあるべきではなく、小学校の近くにあるべきで、そこで親を待つものとして学童クラブを整備されるのが望ましいと考えている。
 - ・公設公営では枠からはみ出すより、安全安心を求めており、民営は人が集まる魅力を求めるものと思っている。その公営と民営の間に存在する「ちょうど良い加減」をどのように考えていくかビジョンを持つことが一つの方向性と考え。
- 委員長
- ・公設民営、公設公営について検討することが本検討委員会の方向性の軸になると考える。どちらがいいか悪いかじゃなくて、三朝らしい学童っていうのは、どういう選択をすればいいのか、公設公営、公設民営について考えることが、一つの軸になってくると思う。
 - ・三朝らしい学童にはどのような選択をしていくか。
 - ・その選択の中に、現状の実態、つまり民間の良さ、直営の良さについてもう一度棚卸して、整理しながら、次の会議で三朝らしい学童はどういったものがいいのかを検討するのが良いか考える。
 - ・実態については今回で、概ね共通認識を持っていただいたと思う。
 - ・今日の記録により、2回目以降の会議の組み立てを行いたい。
 - ・本日いただいた意見の内容については、いつごろ会議録ができるか。
- 事務局
- ・一週間程度いただければ。

- 委員長
- ・会議録は委員の皆さんへ送付してほしい。又、私と事務局で後日、会議録を基に打ち合わせを行い、ある意味、どなたがどういう発言されたかと目を通し、それをベースに意見を集約したい。
- 委員
- ・2つの学童を1つにするのか、それとも2つのままかという議論をしたい。
- 委員長
- ・当然、それは大きな課題であり議論すべき。地域の人たちとの関わりもやはり独自のものがある方が良いと感じるところもある。その辺を、次回、副委員長の北栄町での実態を詳しい話もお聞きしながら進めたい。
- 事務局
- ・新年度の話となるが、5月頃、視察場所（中部圏域1市3町内）を2つ程度検討して提案する予定。
- 委員長
- ・それでは委員の皆さん、また次回、よろしくお願ひしたい。

以上